「日々の理科」（第 468 号） 2015（H27）,10,15

# 「頭足類の多様性（４）」～都会のベレムナイト～

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

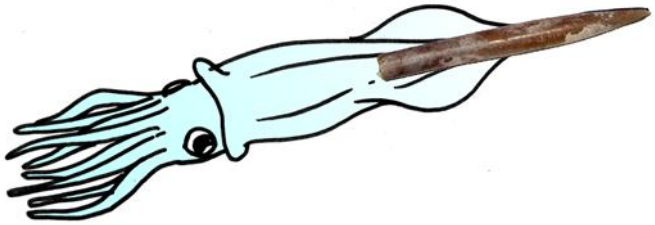
中生代（およそ２億５万年前～6500 万年前）の代表的な生物といえば、アンモナイトと恐竜だろう。特にアンモナイトは、世界中から、ほとんど異常といえるほど大量の化石が見つかっている。中生代の海には、イワシの大群のように、アンモナイトが、うじゃうじゃいたにちがいない。

「アンモナイト」石ころのように大量に産出するので、一気にたくさん入手できる。マダガスカル産

アンモナイトは、中生代の代表的な示準化石である。中生代は長いので、アンモナイトも時期によって、劇的に進化した。従って、層理の研究にも、大変重要な化石なのである。しかし、もう一つ忘れてはいけないのが、ベレムナイトの存在である。

「ベレムナイトの化石」 *Belemnoidea sp.*
頁岩中から掘り出した立体感のある標本。田中所蔵。

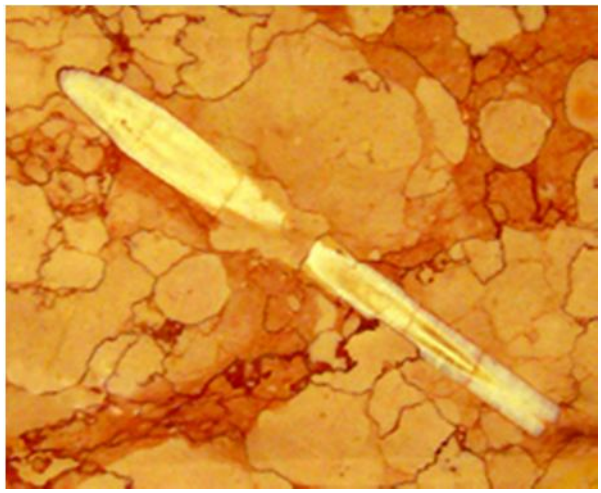
ベレムナイトも、アンモナイトやオウムガイと同じ、頭足類の仲間である。復元された姿は、現生のイカにそっくりである。ちがうところは、頭部に鞘のような硬い内骨格を持っていたことである。



「ベレムナイトの復元図」　作図；C. Tanaka

このベレムナイトも、中生代の海で、アンモナイトに負けないぐらい、大繁栄していた。軟体部分は、ほとんど化石として残ることはなく、この鞘だけが大量に発見されている。形状から「矢石」とも呼ばれている。もっと注目されていい化石なのだが、アンモナイトとちがって地味な姿なので、子どもたちにも人気がない。このベレムナイトも、中世代の終わりに、アンモナイトとほぼ同時に絶滅。残念ながら、「ベレムナイトの刺身」は食べることができない。

しかし、このベレムナイト、大都会でも結構たくさん発見できる。大理石を研磨した壁面に、アンモナイトなどと一緒に埋まっているのだ。もちろん採集は禁止！探して眺めるだけでも、十分に楽しい。



「デパートの壁のベレムナイト」日本橋三越